

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 7月 23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670600172号		
法人名	有限会社 ふれあい		
事業所名	グループホーム ポンタ		
所在地	鹿児島県 阿久根市 赤瀬川 4 2 9 5 番地 (電 話) 0996-73-4348		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年7月22日	評価確定日	平成21年8月15日

## 【情報提供票より】 ( 21年 6月12日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤6人 非常勤2人	常勤換算7人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての ~ 1 階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,800 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		870 円

## (4) 利用者の概要 ( 6 月 12 日現在 )

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.2 歳	最低 67 歳	最高 95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	内山病院 ひかり歯科クリニック
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に恵まれた住宅地の中に開設されているホームである。入居者は馴染みのある近隣の暮らしぶりに触れながらゆったりと落ち着いた日々を過ごしている。職員の中に看護職数名が配置され、入居者の身体状況の変化には、細やかな配慮と対応がなされており、家族等に安心感を与えている。また、病院受診を通して、主治医との情報に基づきケアの質を高めるよう取り組んでいる。運営者・職員間の信頼関係が密にできており、職員は自信と誇りを持ち、入居者に笑顔で接する事をモットーに日々を共に暮らしている。地域資源の活用や家族・地域住民との関係も深く、地域密着型サービスを常に実践しているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 研修は段階に応じて参加できるように啓発し、内部研修会はミーティング時に課題を設けて勉強会をしている。定期的な避難訓練を消防署・地域住民の協力のもと行っており改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者・職員は評価の意義について話し合い、全職員で評価に取り組みケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。自己評価を行う事により職員間の共通認識が高まり、ケアに活かされている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は定期的で開催されて、ホームの活動や取り組み状況を報告している。講演会開催に家族等や地域住民参加を呼びかける計画や新型インフルエンザの予防対策など、意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は、面会時や定期的で開催されている家族会等で、情報交換に努め、協力関係を築きながら意見を出しやすい雰囲気作りが心にかけている。入居でなく仕事にきていると思っている入居者の要望・意見にも対応し、運営に反映させている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 老人クラブ・婦人会の方々との交流や夏祭りへの参加呼びかけ、地域催しのピクニックに参加したり、中学生の体験学習・専門学生の実習を受け入れている。近隣住民が野菜や果物を持参するなど、交流が行われている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義と役割、慣れ親しんだ地域で暮らし続けるための理念を、職員の意見を集約してつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示して、ミーティング時や日々の支援の中で確認し合い、共有に努めケアに活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人クラブ・婦人会の方々との交流や夏祭りへの参加呼びかけ・地域催しのピクニックへ参加している。また中学生の体験学習・専門学生の実習を受け入れている。近隣住民が野菜や果物を持参するなど、交流が行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義について話し合い、全職員で自己評価に取り組み、ケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。自己評価を行う事により、職員間の共通認識が高まり、ケアに活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催され、ホームの活動や取り組み状況を報告している。講演会開催に家族等や地域住民に参加を呼びかける計画や新型インフルエンザ予防対策など、意見をサービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に、利用者の状況報告や運営・サービスについて相談したり、ホームの行事に参加呼びかけをしながら、関係作りを積極的に行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	来訪時や文書・電話等で、日常の暮らしぶりや身体状況を報告し、職員の紹介もしている。金銭については、入居者1名が自己管理している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は面会時や定期的に開催される家族会等で情報交換を行い、協力関係を築きながら意見を出しやすい雰囲気作りを心がけている。入居でなく仕事に来ていると思っている入居者の意見・要望にも対応して、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員との馴染みの関係の重要性を認識しているため、職員の異動や離職は殆んどない。職員は馴染みの関係を維持している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は段階に応じて参加できるように啓発し、内部研修会はミーティング時に課題を設けて勉強会をしている。資格取得に意欲的な職員には支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加しており、運営者は役員として活躍している。講演会時に情報交換をしている。また、サービスの質の向上に相互訪問や交換交流等の検討をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の折には自宅や病院に面会に行き、利用者の生活歴や思い等を十分に聞いている。また、見学をしてもらい信頼関係を築き不安なく入居できるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中で個々の特技であるピクニック時の弁当作り・盛りつけや昔の歌などを教わったり元気づけられながら、入居者から学び支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に一人ひとりの生活歴や希望・意見の把握をしている。日々の関わりの中で心身の状況や言動・表情等で察するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の心身の状況や家族・主治医などの意見や要望をもとに、カンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと、個別記録にケアの実践結果や気づきを記録して、情報を共有するようにしている。また、入居者の状態変化や入退院の折等、モニタリングを行い介護計画の見直しに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の状況や要望に応じて、病院受診・理美容院送迎・特別な外出送迎など、必要に応じて柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等が希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して家族・医師・看護師を交えて話し合い、職員も共有している。ホームが支援できる方向性を統一した指針が定められて家族等の同意も得られている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため尊厳に対する関わり方について勉強会をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時の個人情報保護の誓約書もとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活の流れは決められているが、起床・食事・レクリエーション・入浴・就寝等、その人の生活リズムと身体状況を大切にしながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
て					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を献立に取り入れて、下ごしらえ・味付け等を一緒にしながら、職員も同席して食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが一人ひとりの希望や体調に合わせて対応している。入浴拒否者に対しては時間をずらしたり、言葉かけ等で対応し入浴を楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カレンダー作り・下ごしらえ・洗濯物たたみ・裁縫等、利用者の趣味や特技を発揮できるように支援している。また、気晴らしの支援には理美容院・電話・ピクニック等に出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や公園に出かけたり、また入居者の希望や体調・天気等を考慮しながらピクニックやベランダで日光浴・食事をしたり、花見などに出かけ、閉じこもらない支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアに取り組んでおり、プライバシーに配慮しながら見守りに努め一緒に行動しており、入居者は開放的で自由な生活をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼・夜間想定した定期的な避難訓練を消防署や地域住民の協力のもとに行っている。災害時の備蓄は検討中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録して、一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせて食事形態を変えている。栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は和風造りで、清潔で明るくよどみや臭いがなく、温度・湿度にも配慮されている。玄関・ベランダ・ホールに季節の花々が飾られ、ソファや豊部屋など、くつろげるスペースが確保されて入居者はゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・位牌・写真・手作りカレンダー等、使い慣れた物品が持ち込まれている。また、居室入口のドアは障子仕立てになっている。分かりやすい表札が掲げられて安心して過ごせる居室づくりになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。